麻酔分娩をご希望の方へ

（麻酔分娩の説明書・同意書）

医療法人社団　中　林　病　院

2015.11 作成
2023.11.改訂
2026.06 改訂

麻酔分娩をご希望の方へ（説明書・同意書）

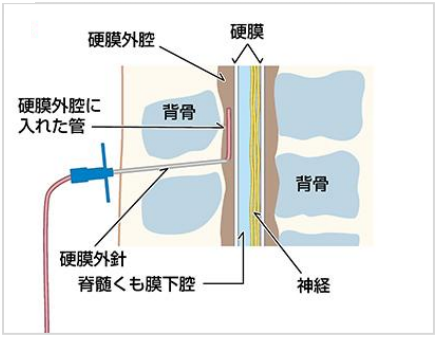
当院での麻酔分娩について

麻酔分娩は痛みが少なく、妊産婦への負担が少ないため分娩後の回復が早いと考えられています。しかし、痛みが全くないという訳ではありません。
麻酔分娩の目的は痛みを完全に取り去ることではなく、快適な分娩を提供するためです。
麻酔分娩を希望される方には、その理解を深めていただくため麻酔外来を受けていただいております。
麻酔分娩の流れ、方法、メリット、デメリットなどを良くご理解いただいた上で、麻酔分娩をお受けになるかお決め下さい。
なお、麻酔分娩の費用は自費負担で 15 万円となります。

硬膜外麻酔を使用した麻酔分娩

当院では、硬膜外麻酔を用いた計画麻酔分娩を行っています。

◆硬膜外麻酔とは



背骨には脊髄という神経の束が走っています。
脊髄の周りには髄液という液体で満たされており、
その周囲を「くも膜」「硬膜」という膜が覆っています。
硬膜外麻酔とは、背中から針を刺して、硬膜の外側にある
硬膜外腔というスペースにチューブを挿入し、
そこから局所麻酔薬を注入する方法をいいます。
当院での計画無痛分娩のスケジュールは下記の通りです。
①分娩誘発の前日に硬膜外腔にチューブを挿入し、一晩待機します。
②翌朝より分娩誘発を開始し、陣痛が有効化した時より局所麻酔薬の注入を開始します。

◆お母さんへの影響

① 針やチューブ挿入の際に硬膜が傷つくことで、麻酔分娩後に頭痛が起こることがあります(0.7～1.5 %)。ほとんどの場合、１週間以内で硬膜の修復と共に治ります。
腰痛・下肢の神経損傷は、分娩後にまれにみられる合併症でもありますが、麻酔分娩の処置の際に神経が傷つき起こる可能性もあります。
可逆性のものがほとんどですが、治療に長期間かかる場合もあります。

② 非常にまれに、硬膜外腔血腫(100 万分娩あたり発生率 1,97)により神経を圧迫し、感覚や運動麻痺を起こす可能性があります。また局所麻酔薬アレルギー(1.0 %未満)や局所麻酔薬中毒の可能性もあります。重篤な局所麻酔薬中毒の場合、心停止に至

る事もありますが、約 160,000 分娩に 1 件と言われております。

③ 硬膜外麻酔の使用時間が長くなると、お母さんが発熱することがあります(15～25％)。

◆赤ちゃんへの影響

①母体の痛みが少ないため呼吸が安定し、赤ちゃんへ酸素が十分に届けられます。

②硬膜外麻酔における局所麻酔薬が胎盤を通過して赤ちゃんに与える影響はほとんどないと考えられています。お母さんに血圧低下がみられた場合には赤ちゃんに影響が及びますので、麻酔分娩中は赤ちゃんとお母さんの全身状態について常にモニター管理しており、すぐに対応出来る体制を整えています。

③局所麻酔投与後、子宮が過剰に収縮することがあり、それにより一過性に赤ちゃんの心拍数が低下することがありますが、この変化は基本的にはすぐに回復します。

◆分娩経過への影響

①陣痛を人工的に起こすため、陣痛促進剤の使用が必要となります。
また、陣痛促進剤を用いても陣痛が微弱な場合、人工的に破水（人工破膜）をさせ陣痛を強めることがあります。
人工破膜により、赤ちゃんの心拍数が低下することがあります。
心拍数の低下が頻繁に認められる場合、帝王切開を行うことがあります。

②分娩時間が長くなった場合、子宮内感染の割合が高くなります。

③産道出口で娩出力が弱く分娩が遅滞した場合、鉗子・吸引分娩になることがあります。

注意事項

① 血液検査の結果や背骨周辺の病気や解剖学的理由で、麻酔分娩が行えない場合があります。

②誤嚥性肺炎の危険を減らすために、麻酔分娩前は 4 時間以上の禁食をお願いしています。飲水は、水、お茶、スポーツドリンクのみ可です。

③麻酔中は転倒の危険があるため、原則として歩行禁止です。ベッド上安静となるため、トイレに行くことはできません。そのため導尿を行います。

④ 分娩誘発予定日より前に陣痛が来てしまった場合、麻酔分娩を施行できないことがあります。

⑤ 硬膜外麻酔カテーテルを挿入しても局所麻酔薬をしなかった場合や、麻酔効果が不十分であった場合においても、麻酔管理料は発生します。

麻酔分娩（硬膜外麻酔）申込書・同意書

当院における麻酔分娩について、十分に説明し患者から理解を得ました。

医療法人社団　中　林　病　院

説明年月日　：　＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

説 明 医 師　：　＿＿中　林　　靖＿＿

同　　意　　書

中林病院での麻酔分娩について説明を受け、麻酔分娩の流れ、方法、メリット、デメリット、合併症、注意事項など十分に理解したうえで、私は硬膜外麻酔による麻酔分娩を希望し、実施を依頼します。

＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

患者本人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

患者家族＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（続柄：　　）